

小鈴シリーズ通信 vol.1

～ 栽培前期編：定植～11月頃まで ～

この度は、「小鈴シリーズ通信」をお手に取っていただき誠にありがとうございます。
本紙では、ミニトマト「小鈴シリーズ」を栽培する皆様にお役立ちできる情報をシーズン中
3回にわたってお届けしてまいります。続けてお読みいただけましたら幸いです。
今回 vol.1 では、前期の栽培のポイントを中心にご案内してまいります。

目次

小鈴シリーズ一覧

小鈴シリーズに共通した特性

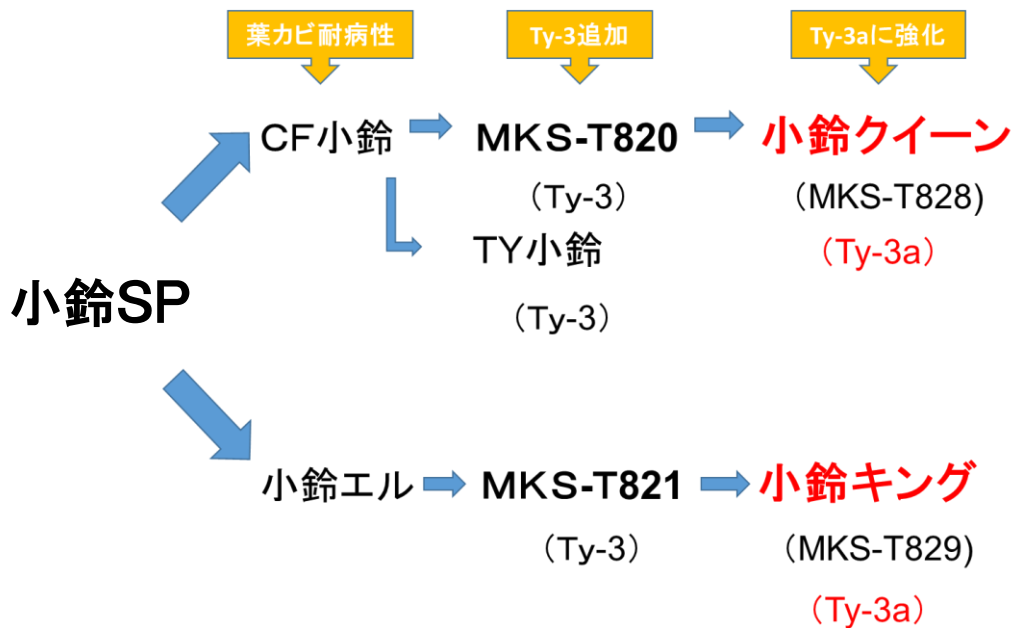
小鈴キングとクイーンの特性

前期栽培のポイント

- ✓ 初期の草勢を付けすぎない
- ✓ 草勢が付き過ぎた状態とは？
- ✓ メガネの発生要因は？
- ✓ メガネの発生防止対策
- ✓ メガネが発生してしまったら？



小鈴シリーズ一覧



小鈴シリーズに共通した特性

- ✓ 中葉で節間が短い
誘引作業の手間が少ない。
- ✓ 草勢が強い
厳寒期でも安定した草勢を維持しやすい。
- ✓ 裂果は極めて少なく、果実が硬く、へたが取れにくい
収穫調整時の作業性、収穫後の輸送性、店もち性に優れる。
- ✓ 果実は濃赤色でやや光沢がある
収穫後の荷姿が非常に美しい。
- ✓ 食味が良い
甘みと酸味のバランスが良く、コクがあり美味しい。



小鈴キングとクイーンの特性

- ✓ 黄化葉巻病耐病性を強化
‘TY-3’より強い‘TY-3a’にアップグレード！ 夏場の罹病がさらに軽減 安心安全♪
- ✓ 早生性
従来、TY-3a を付与すると熟期が遅くなってしまっていた。しかし早生性をキープしたまま TY-3a 因子を持たせることに成功！
- ✓ 小鈴シリーズの特長はすべてそのまま！

前期栽培のポイント

✓ 初期の草勢を付けすぎない

- 極端な若苗定植は避ける。特に露地栽培の場合は基肥の減肥が必須。
- なるべく大きい鉢での育苗の方が望ましい。
- 活着後の灌水を控えめにする^①ことで、暴れさせないようにする。

✓ 草勢が付き過ぎた状態とは？

- 主茎や側枝の節間が詰まりすぎている。
- 特に草勢が強い場合、生長点の先端付近の茎に縦の条溝が現れ、裂開して穴が開く(=異常茎、メガネとも呼ぶ)。また、芯止まり症状の発生にもつながる。
- メガネが出るような状態では...
 - ① 茎がわい化状態になり生育が遅れる。
 - ② 正常な花芽が着生しにくくなり、結実不良となる。
 - ③ 大幅な収量減につながる。



生長点付近の茎に症状が現れる



茎の中央部が裂開する:メガネ症状

✓ メガネの発生要因は？

- 窒素過剰、水分過多、ホウ素欠乏。
- 高温期作型の若苗定植。
- 若苗定植による低段花房(1~2段)の結実不良。

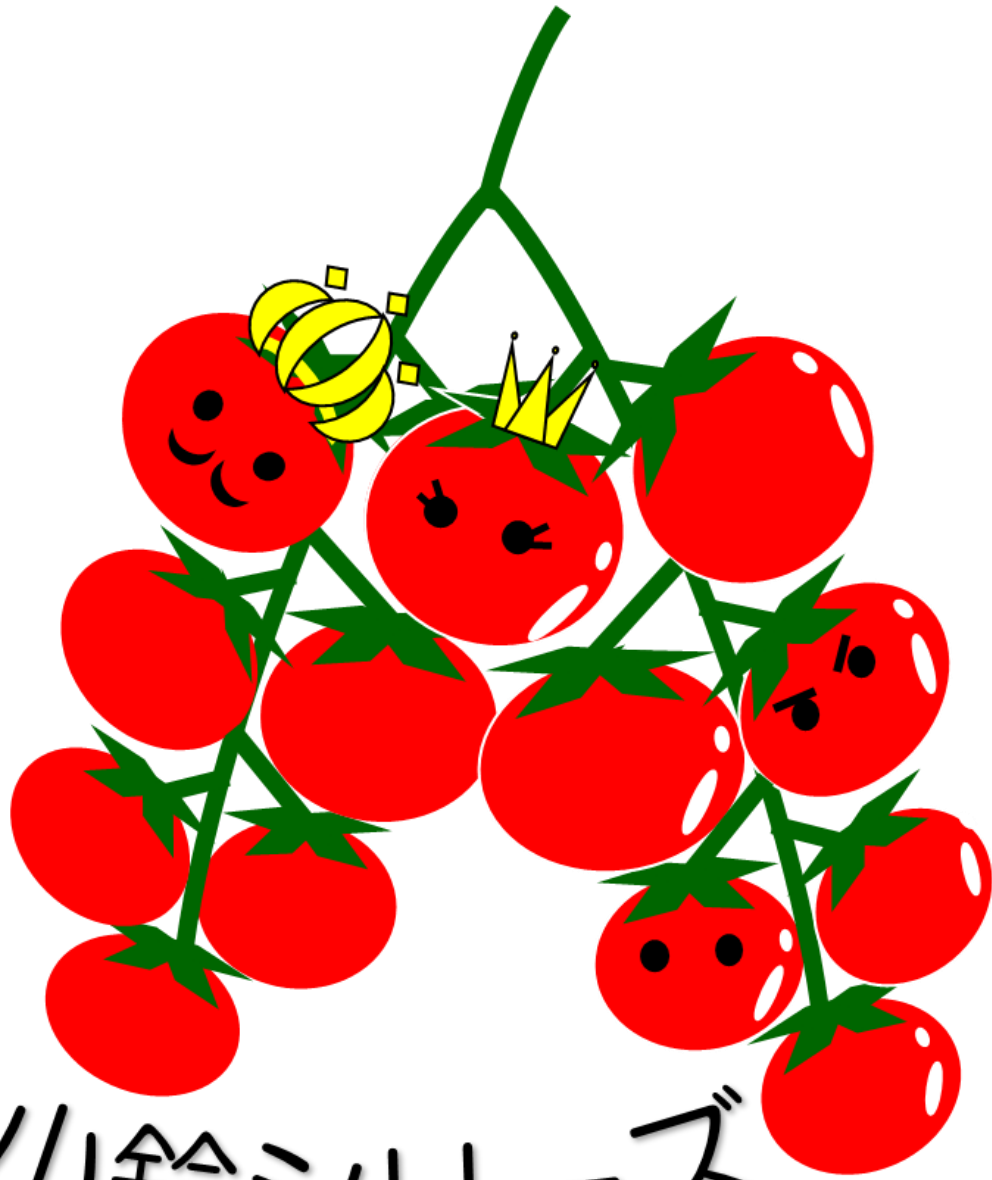
✓ メガネの発生防止対策

- 元肥の窒素を減らす(定植苗の大きさに合わせて減肥する。若苗ほどより多く減肥する必要がある)。
- 定植適期苗よりも2~3日遅らせて定植する。
- 活着後の灌水過多を避け、初期生育の安定化を促す。
- 低段花房から確実に着果負担をかける(1~3段花房はホルモン剤処理で確実に着果させる)。

✓ メガネが発生してしまったら？

- 追肥、灌水を控える。
- カルシウムやホウ素などを葉面散布する。
- 草勢に応じて下葉を3~5枚前後摘み取る。
- 側枝を30cm前後に伸ばした後、強剪定する。

※ 次回「小鈴シリーズ通信 vol.2~栽培中期編~」は10月下旬頃にお届けいたします。



小金鈴シリーズ



みかど協和株式会社